



FC GIFU

FC 岐阜
株式会社岐阜フットボールクラブ
取締役会長 宮田 博之

連載 Vol.

119

日本サッカー、新たな季節へ — Jリーグ「秋春制」への挑戦 —

Jリーグは2026年から、シーズンの開催期間を8月開幕・翌年5月閉幕とする「秋春制」へ移行します。

これまで続いてきた2月開幕・12月閉幕の「春秋制」からの変更は、日本サッカー界の歴史において大きな転換点となります。

欧州をはじめとする大多数の国々では、すでにこの「秋春制」が主流であり、これまでJリーグとはシーズンカレンダーにズレが生じていました。今回のJリーグのシーズン時期変更により、そのズレが解消され、選手が海外へ挑戦しやすくなります。更には、海外の有力選手が日本に加入しやすくなることで、Jリーグ全体の競技レベル向上も期待され、「世界と行き来できるリーグ」への進化が見込まれます。

2022年カタールワールドカップで日本代表は9位となりましたが、今後は3位以内を目標としています。

そして何より、選手とファンの健康を守る「酷暑回避」も重要な目的です。真夏の30℃を超える環境での試合は、体力の消耗だけでなく安全面のリスクも伴います。より快適な秋や春に試合を行うことで、選手のパフォーマンス向上と観戦環境の改善が見込まれます。JFA（日本サッカー協会）もこれに合わせ、7～8月の大会開催を極力避ける方向を打ち出しており、日本全体で“安全で持続可能なサッカー環境”を築く流れが強まっています。

これにより2026年Jリーグのリーグ戦は8月からの開催となりますが、秋春制へのスムーズな移行を目的に、2025年2月から5月限定で特別大会「明治安田J1百年構想リーグ」「明治安田J2・J3百年構想リーグ」が行われます。

J1は東西2グループ・各10クラブに分けてのホーム&アウェイ戦を行い、その後に各グループの同順位同士で戦うトーナメントを開催。1位から20位の順位を決定します。J2・J3は地域ごとに4グループで戦う方式を採用し、いずれも順位に応じた賞金を獲得できる賞金制の大会になっています。

この「百年構想リーグ」は、日本全国の60クラブがそれぞれの地域を代表して戦う姿を通して、Jリーグが掲げる「地域とともに歩む」という理念を改めて体現する機会でもあります。クラブや選手にとっては、カテゴリーを超えた新たな挑戦の場であり、全ての皆さま方にとっても非常に大きな期待と関心が集まる貴重なシーズンと確信しています。

更にはJリーグの世界各国と同じ秋春制への移行は、選手や指導者たちの国際間の移籍によりチーム強化を生み、地域イベントとの連携がしやすくなり、観戦者数の増加が見込まれます。

また、観光シーズンに合わせた集客企画や、地域産品・企業PRの機会を増やすなど、地元との結びつきをより深めるチャンスです。年間を通じてスタジアムを活用しやすくなり、スポンサーにとっても「地域と共に成長できる投資価値」が高まる機会が生まれるなど、多くのメリットが見込まれます。

2026年からの世界基準のシーズン制採用により、日本サッカーは“新しい季節”を迎えます。

秋から春へ。そのリズムの変化は、気候や日程の問題を超えて、Jリーグが世界と肩を並べ、日本の地域をさらに豊かにするための挑戦です。Jリーグが地域とつながり世界とつながる「百年構想」が、いよいよ開こうとしています。

多勢のファン・サポーター、たくさんのパートナー企業、すべての市町村の皆さま方の「みんなのFC岐阜」は、2026年から更に飛躍できるクラブとなるよう、皆さまと共に力強くリーグ戦を戦い抜きます。今後とも熱い応援をよろしくお願いいたします。



みんなのFC岐阜
FC GIFU for everyone